

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772300972		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホームさくら北畠 2階		
所在地	大阪府大阪市阿倍野区播磨町1-19-9		
自己評価作成日	平成22年4月10日	評価結果市町村受理日	平成22年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772300972&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様を数名のグループ単位に分けたり、あるいは個人でスタッフとともに外出をし気分転換を図って頂いたりしています。 ・地域密着を念頭とし近隣の方との交流を図れるよう、行事の際には参加して頂く。また、保育所・幼稚園児の訪問も定期的にあり入居者様と交流されている。 ・毎月施設全体で会議を行い、ユニットごとの問題点を話あったり勉強会も実施しスタッフのスキルアップをおこなっている。 ・身のまわりの使用物品等は、入居者様とスタッフが買物へ行き購入する。(入居者様が手にとり確認し、使用物品を購入)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>阿倍野区の市街地に立地するホームですが、一步玄関に入ると和風の佇まいになっています。静かで落ち着きを感じさせ、障子や畳コーナーを設けたり居室前にベンチを設置するなどくつろぎの場を多く備え、好きな場所で過ごせるように工夫されています。法人の理念にそってホームでの支援に向けたキャッチフレーズを「のんびりと笑顔あふれる第二の我が家」と定め、利用者が日々笑顔で過ごせるように、職員は出来るだけ利用者の立場に立った支援に努めています。毎月おやつ中心に外食を楽しんだり、誕生日には好みの食事を作り、皆で祝うなど家族的な関わりを大切にしながら利用者の思いを受け止められるように心がけているホームです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的人権の尊重、健全育成・援護の実現、社会的自立の助長、地域福祉への貢献「のんびりと笑顔あふれる第二の我が家」をホームの理念に掲げている。	理念とともにフロア毎に介護への思いをキャッチフレーズとして作成し、朝夕の申し送り時に話し合っている。「のんびり笑顔で第二の我が家」と位置付け、職員と利用者が共に笑顔の生活が送れるように支援の指針として玄関に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園児との交流を定期的に行っている。	町内会に加入し、地域のふれあい喫茶への参加など交流できるように心がけている。保育所や幼稚園からの訪問時には、遊戯等の披露があり利用者の喜びとなっている。ホームの夏祭りには地域の方々にも声掛けを行い、毎年恒例となり参加者が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護の相談業務及び認知症の介護方法の助言を希望者に行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、サービスの実施について発表している。また、更なるサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、利用者や家族、地域包括支援センター職員等の参加で行われている。状況や報告を行い参加者から利用者へ様子を聞かれるなど、和気あいあいとした会議となっているが、2ヶ月に一度の開催が困難な状況にある。	運営推進会議が、地域理解や支援の体制になって行けるよう、更に多くの参加者に声を掛けられ、2ヶ月に一度の実施がなされる事が期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者との連携や協力体制を望んではいるがまだ整備されていない。	区役所には、書類申請などに出向いている。運営推進会議の報告は、指導に沿って年度ごとにまとめて持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り時やカンファレンスの際に、職員内で話し合い等を行なっている。施錠に関して、ユニットの入り口を施錠しているが、現在施錠解除できるよう職員はケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては機会がある毎に職員に伝え、書類の回覧などで個々が意識し注意するように心がけている。家族には説明し理解を得たうえでエレベータはロックしているが、帰宅願望のみられる利用者には様子を見ながら外出などの支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体状態(入浴時等)の観察を行い早期に皮下出血等の発見をし、事故報告書を記入し定例会議にて報告し職員が報告書を閲覧している。		

グループホームさくら北畠 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修により、学ぶ機会を持ち資料の配布を研修に参加できない職員には行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを実施し、契約後も不安、疑問点には敏速に対応すよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見等を記入して頂ける意見箱を設置している。意見等があれば速やかに検討する。運営者への報告も随時行っている。	家族の来訪時や電話などで意見を聞くようにしている。年2回家族会が行われ、意見交換の場となっている。出された意見や外部評価等も含め検討し運営に反映するとともに家族に報告を行っている。今後、以前行われていた家族アンケートの再開を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用意見箱をタイムレコーダー付近に設置し定期的に意見用紙を回収している。定例会議の際、意見交換を実施している。	全体会議やユニット会議で職員は自由に意見を出し合い、出された意見を運営に反映している。職員は毎年度自己評価を行い支援を振り返るとともに管理者との面談で意見や提案の機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた、業務内容の変更を実施。職員からの提案があれば、積極的に応援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会に職員が積極的に参加できるよう、学習内容も検討し決めることにより向上意欲や研究心も高まり進んで学習する機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの同系列のグループホームと会議や職員懇親行事を行って交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に際し、施設見学をして頂き面接は自宅へ訪問し本人自身が緊張せず話ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にいたるまでに、書面等により情報の共有を図れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際まず、現在の状態を把握し必要に応じて様々な介護サービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を人生の先輩として尊敬し、様々なことを学びながら日々の暮らし・食事レクリエーションを共に楽しむように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様と定期的な家族会をすることにより意見交換をし利用者様を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族だけではなく、友人や馴染みの人に面会にきて頂いている。	昔馴染みの方や知人、友人の来訪があり、家族とも相談の上支援を行っている。行き慣れた理髪店へ通うなど今までの関わりを大切に考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様同士コミュニケーションを図れるよう、常に間に入り関わり合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての相談・助言を必要に応じて、提供できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の残された能力や希望や思いの把握をしっかり確認した上で見守りながら支援するよう努めている。	ホーム独自のアセスメントやセンター方式の1部を利用して、出来るだけ利用者の様子や暮らしの意向が把握できるように努めている。家族からも出来る限りの情報を得て、意向について本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にアセスメントを行いある程度把握し、入所されてからも本人あるいはご家族より情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを朝・夕行い日々の状態を総合的に把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際、ご家族に説明し変更及び介護計画の追加を考慮し作成するよう努めている。	入居時の介護計画は暫定で作成し、利用者の暮らしを見極め短期間で修正を行っている。定期的には3ヶ月で見直し、出席職員だけではなく事前に書類による全職員の意見を聴取の上、カンファレンスを行っている。また、医師や看護師の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録の情報だけではなく、入居者様ノートを活用し情報を共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な制度のご案内、本人や家族の状況を把握し柔軟に対応、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の残された能力や希望や思いの把握をしっかりと確認した上で見守りながら支援するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談の上、入居者様やご家族の意向を尊重して適切な医療処置が受けられるように努めている。	入居時には今までのかかりつけ医の継続も含め、利用者や家族の意向に沿って決められている。個々のかかりつけ医や協力医療機関の医師の往診や看護師の訪問も含め個々の利用者に応じた対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が訪問支援があり、日常の状態を報告し医療支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力の医療機関と連携を密に図り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の「できること・できないこと」を検討は行なっているが地域の関係者と共にチームで支援に取り組みには至っていない。	ホームの重度化した場合の指針を契約時に説明し、家族会でも報告する機会を設け指針の共有を図っている。実際には家族や医師との十分な話し合いを行い、場合によっては看取りの実践に繋がられるように考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会で、応急手当等学習する機会を作っている。また、参加できないスタッフには書面での閲覧を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知気等の設備面や非常時の対応を職員に周知している。	年2回災害時訓練を行っている。一度は消防署立会いで、一度は自主訓練で行われている。どちらも昼間想定で行い、今後夜間想定訓練を検討中である。	夜間想定訓練の企画が立てられているが、今後は地域の方々の理解や協力を得る方向での検討が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様の尊厳を大切に、プライバシーへの配慮にも気を配っている。定期的にお互いで指摘し、確認し合っている。	家族の一員として、暖かみのある対応や目上の方への対応、その場に応じた対応が出来るように心がけている。個人情報の記録物は、事務所に鍵付きのロッカーで適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様の思いが表せるようコミュニケーションをしっかりと、説明を適宜行い納得しながら暮らせる支援を提供できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや生活のリズムを本人本位に考えて、ゆっくりとした支援が行なわれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、ご家族と相談のもと化粧品等管理を行なっている。また、定期的に理容・美容院への付き添いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は、入居者様にお声かけしお手伝いして頂き職員と共同で行っている。職員も一緒に会話をしながら家族のように食事を行い後片付けもお手伝いして頂いている。	業者に委託し献立に沿った食材が届けられ、食事作りは出来る事に携わってもらい、包丁も使いながら準備から後片付けまでを一緒にしている。時には誕生日に好物の食事が提供されたり、手作りのおやつが提供されている。職員と利用者は共に語らいながら食卓を囲み楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量はかかりつけ医師の指示のもと毎食ごとに記録している。入居者様ごとに応じた食事形態を提供できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促し個々に応じて介助及び義歯の管理を毎日おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知り、また各個人に合わせた排泄かかりつけ医師との相談のもと服薬管理を行なっている。	排泄表を利用しながら利用者の行動や表情を見逃さず、トイレでの排泄が出来るように支援しています。夜は安全・安心のためおむつを使用していますが、昼間はリハビリパンツやパッドを使用しながら声かけや誘導をして自立の方向に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、個人に合わせて飲食物を提供している。水分量の確保、おやつ等で排便を誘発できるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室には浴槽が左右二つ備えてあり、身体機能への配慮を考慮しているが、入居者様一人ずつの入浴支援を行なっている。	週に3回、朝から16時ぐらいまで入浴の準備をしています。希望があれば毎日や夜間の入浴も可能で、利用者の状況に応じてシャワー浴はいつでも使用できるようにしています。利用者ごとに合わせた湯温や追いだき、お湯を入れ替えるなど気持ちよく入れるようにしています。また、夏場には屋上で足浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に考慮し休息のとれる時間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成したり、個人用の服薬表も作成することにより用量等理解できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が作業し易いアイランドキッチンで家事を行なったり、趣味や洗濯物整理など暮らしの中で入居者様の役割や楽しみごとができるよう役割作りに工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は出来るだけ行うようにしている。ご家族と一緒に近くまででかけたり、外出を伴う行事を企画している。	利用者の要望を中心に「外に出かける」事を大切に考えている。近くの公園など散歩コースとしているが、出かけられない時には、屋上を利用した外気浴を心がけている。おやつが中心であるが外食の企画や季節の花見などに出かけ楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、買物へ近隣のスーパー等へ職員が付き添う。お小遣い帳の管理を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、居室内に電話を設置されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、小魚などを飼ったり、季節に合わせた飾り付け等を行なうよう努めている。	和風の佇まいが静かで落ち着きを感じさせ、利用者が思い思いの場所で寛げるよう、畳コーナーや居室前のベンチ、入浴後のくつろぎの場所作りなど工夫されている。行事や外食時の写真や手作りの利用者の作品などと共に飾られ思い出を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室前には、ベンチがあり気の合った方とお話等ができる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様ที่ใช้慣れた家具や写真を置いて落ち着いて過ごせる居室になっている。職員は、家族と相談して居心地の良い部屋になるよう努めている。	居室は畳部屋で、入口にはトイレと洗面所が設置されている。布団を敷き休むことも可能であり、利用者のお好み通りのしつらえにしている。使い慣れた筆筒や人形、家族の写真など好みの配置がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の玄関に入居者様がわかるよう表札や飾りつけをし、居室がわかるよう工夫している。		